

20018WCスペイン大会 (GGM) 記録

○ 予選リーグ

Aプール ・イギリス ・スコットランド ・ドイツ ・南アフリカ ・イタリア

Bプール ・オランダ ・スペイン ・日本 ・フランス ・アイルランド

Cプール ・オーストラリア ・ベルギー ・ウエールズ ・ニュージーランド

予選リーグ

6月22日 対 スペイン 14:15 ピッチ1 (GGM)

日本のセンターパスにより試合開始、立ち上がりからスペインのパス攻撃で日本サークルに幾度となく攻め込まれる。3分左からドリブルで持ち込まれDFのキックによりPCを取られる。シュートされるがDF(5)にファインセーブにより得点を与えない。その後もスペインのペースで試合は展開するがDFの堅い守りで得点を与えず1Qを0-0で終了する。2Qに入ってもスペインのうまいパスにより日本陣地ないでの展開となるが堅い守りで得点を与えず前半を無得点で終了する。3Qに入り42分インターフェアーにより川上がグリーンカードで2分間の退場となる。44分DFにキックによりPCを与え左下にクリーンシュートを決められ先取点を与える。そのまま3Qを終了する。4Qに入り日本も縦パスから再三攻撃をするが得点には至らない。しかし60分日本は右から攻撃をしかけライトからのセンターリングを牛鼻がタッチシュートを決め1-1の同点とする。後半は相手の足が止まると日本ペースとなり再三攻め込むが得点する事が出来ず1-1の引き分けで終わり勝点1をあげる。

日 本	1	[0-0 0-0 0-1 1-0]	1	ス ペ イ ン
-----	---	---	--------------------------	---	---	---------

6月23日 対 フランス 12:30 ピッチ1 (GGM)

試合開始から日本ペースで試合は進む。5分右から堤のセンターリングを山本がタッチシュートを決め先取点をあげる。その後も日本ペースで試合は展開し得点チャンスはあったが追加点を挙げる事が出来ない。1Qを1-0で終了する。2Qに入りアイルランドも攻撃するが得点には至らない。前半を1-0でリードして終了。3Qに入り日本が優勢に試合展開を進める。40分山本がサークル内でボールをキープ、GKと1対1となりGKの下を抜いてシュート2点目を上げる。4Qに入り、55分レフトから横田がドリブルで持ち込みシュートしたボールを川島がワンタッチで3点目を上げる。63分サークル内で反則を取られPSとなる。左下に決められ1点を返されるがそのまま試合終了する。今大会初勝利を挙げる。

日 本	3	[1-0 0-0 1-0 1-1]	1	ア イ ル ラ ン ド
-----	---	---	--------------------------	---	---	-------------

6月24日 対 オランダ 12:30 ピッチ1 (GGM)

立ち上がりからオランダのパスにマークが機能せずオランダペースで試合が展開する。5分オランダにドリブルで中央突破されクリーンシュートされゴール右に決まり先取点を与えてしまう。その後もオランダの鋭い攻撃をDFは体を張って守り追加点を与えず前半1失点で終了する。3Qに入っても日本の守りは堅く何本ものPCも得点を許さない。4Qに入り日本もカウンターから得点を狙うが得点には結びつかない。69分DF

のインターフェアー～PCを与えクリアミスから2点目を取られゲームセット。初の敗戦となる。

日本 0 $\left[\begin{array}{c} 0-1 \\ 0-0 \\ 0-0 \\ 0-1 \end{array} \right]$ 2 オーストラリア

6月26日 対 イタリア 11:15 ピッチ3 (GGM)

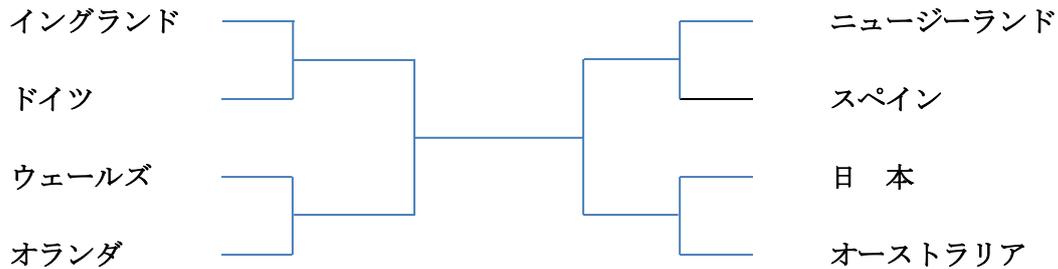
開始早々から日本ペースで試合は展開する。5分左からドリブルでサークル内に持ち込み右にパス、それをタッチシュート先取点を上げる。その後も攻撃するが得点には至らない。1Qは1-0、リードして終了。2Qに入っても日本ペースで試合は展開するが決定力不足で得点には至らず前半を1-0で終了後半に入っても日本のペースは衰えず40分PCから田島のクリーンシュートで2点目を上げる。さらに、45分PCから川上が右隅に鮮やかに決め3点目。続く49分23ヤード付近で川上がボールを奪いサークル内に縦パスを送り牛鼻がワンタッチシュートで4点目を上げ3Qを終了する。4Qに入っても日本ペースで進み63分右からのセンターリングを横田がダイレクトシュートを決め5点目を上げる。5-0で日本の勝利。予選リーグを2勝1敗1分で3位となり各ブロック3位によるSOで決勝トーナメントに上がることが出来る。

日本 5 $\left[\begin{array}{c} 1-0 \\ 0-0 \\ 3-0 \\ 1-0 \end{array} \right]$ 0 フランス

- 南アフリカ 0-2 ニュージーランド ○南アフリカ 2-2 日本
- 日本 0-2 ニュージーランド ○日本 2-0 南アフリカ (順位決定戦)
- 1位 ニュージーランド 2位 日本 3位 南アフリカ
- ※ ニュージーランド、日本がトーナメントへ

	日本	スペイン	フランス	オランダ	アイルランド	
日本		△ 1-1	○ 5-0	× 0-2	○ 3-1	3位
スペイン	△ 1-1		○ 4-1	△ 1-1	○ 6-1	4位
フランス	× 0-5	× 1-4		× 0-7	△ 2-2	5位
オランダ	○ 2-0	△ 1-1	○ 7-0		○ 3-1	1位
アイルランド	× 1-3	× 1-6	△ 2-2	× 1-3		2位

決勝トーナメント



6月27日 対 オーストラリア 9 : 15 ピッチ2 (準々決勝)

スタートからオーストラリアのペースで試合が進み、ドリブル、パス、巧みなスティックワークで攻撃してくる。開始3分サークル内の混戦から一瞬のすきをつかれシュート先取点を奪われる。7分ドリブル突破からノーマークでシュートされ2点目を与えてしまう。13分PCからGKのリバウンドをシュートされ3点目を許す。1Qでいきなり3点のビハインドである。2Qに入っても攻撃は続きPCから4点目を与える。前半を終えて4-0とされる。後半に入ると日本も再三攻撃を仕掛けるが得点に至らない。45分カウンターからサークル内に持ち込み左からシュート、リバウンドを牛鼻がシュート1点を返す。しかし50分、PCから左隅にクリーンシュートを決められ5-1とされる。4Qに入り日本も縦パスからサークル内に入りPCを取得、田島 → 川上クリーンシュートが決まり2点目を上げる。そのまま5-2で敗退、5位 ~ 8位決定戦に進む。

日本 2 $\left[\begin{array}{c} 0-3 \\ 0-1 \\ 1-1 \\ 1-0 \end{array} \right]$ 5 オーストラリア

5位 ~ 8位決定戦



6月29日 対 ドイツ (5位~8位) 12 : 30 ピッチ4

日本のセンターパスにより試合が開始された。立ち上がりからお互い攻守のバランスを取りながら試合は展開された。日本の目指すパスホッケーを中心に縦パスを有効に使いながら相手陣地に攻撃を仕掛ける。10分右からのセンターリングをシュート、先制点を奪い日本ペースでゲームは展開する。28分DFのキックによりPCを与えてしまう。GKのリバウンドを押し込まれ同点とされる。その後もお互いチャンスはあるが得点には至らず前半を1-1のまま終了。後半45分23ヤードから縦パスを入れ相手DFのキックによりPCを得る。川上のクリーンシュートが決まり2-1とリードを奪う。その後も一進一退の攻防が続くがお互いゴールを奪うことが出来ず3Qが終了する。4Qに入っても攻防は続くがお互い得点には至らない。69分サークル内でDFのキックによりPCを与えてしまう。シュートされるがDFのファインセーブで試合終了、劇的

な勝利であった。この勝利により5位決定戦に駒を進めることが出来た。5位決定戦はニュージーランドである。

日 本	2	[1-0 0-1 1-0 0-0]	1	ドイ ツ
-----	---	---	--------------------------	---	---	------

6月30日 対 ニュージーランド 11:15 (5位決定戦) ピッチ3

勝てば前回と同じ5位となるこの試合は、立ち上がりから攻撃を仕掛けるがニュージーランドも初の上位進出となることから激しく攻撃を仕掛けてくる。6分サークル内にドリブルで持ち込まれシュート先制点を与えてしまう。その後もお互いの攻防は続くが得点には至らず前半1-0でリードを許し終了する。後半に入り追いつきたい日本であるが額に43分PCを与え左隅にクリーンシュートを決められ2点目を与えてしまう。4Qに入っても相手の攻撃は厳しく60分PCを奪われGKのリバウンドをきれられ3点目を与えた。65分日本も攻撃を仕掛け右からセンターリングを通しDFのクリアミスを見逃さずシュート1点を返すが時すでに遅し3-1で敗れ今大会6位で終わる。

日 本	1	[0-1 0-0 0-1 1-1]	3	ニュージーランド
-----	---	---	--------------------------	---	---	----------

1位 イギリス 2位 オーストラリア 3位 ウェールズ 4位 スペイン
 5位 ニュージーランド 6位 日本 7位 オランダ 8位 ドイツ
 9位 ベルギー 10位 スコットランド 11位 アイルランド
 12位 南アフリカ 13位 イタリア 14位 フランス

《GGM 総評》

今大会、GGM メンバーはGK2人、FP12人と少数で望みました。2週間で7ゲームと大変ハードなスケジュールでしたが、大きな怪我人もなく無事大会を終了する事が出来ました。結果は14か国中6位と目標の4位以上には届きませんでした。結果的には満足できる順位であった。各国の戦力を見ると優勝イギリス、2位オーストラリアは他のチームに比べ技術、体力共に一歩リードしている。他のチームではウェールズ、スペイン、オランダ、ドイツ、ニュージーランドはほぼ互角と言ってもいい。日本は今大会ドイツには勝つことは出来たが技術的にはやや劣る。しかし、体力では上回る事が出来たと考える。その結果オランダ、ドイツより上位の位置に来ることが出来た。

《日本GGM総評》

今大会パスホッケーを目標に試合に臨んだが上位チームとの対戦ではカウンターをたとうし、攻撃の組み立てが出来ない。しかし、下位チームとの対戦では余裕をもってパスホッケーが出来た。

《今後の課題》

- ・タックルによるラフプレー (カードが多い) タックルではなくジャブで相手ドリブルのタイミングを外す。タックルでボールを取ろうとしない。
 - ・DF (1対1の対応)
 - ・トラッピング (DFに背を向けた止め方)
 - ・パス (正確で強いパス、強いヒット)
- ※次回4位以上を目指すためには以上のスキルを身に着けなければならない。